

TOPICS 1

●ガンレク! フェスタ

「体験して、初めて分かることがある」 家族を対象にした交通安全教室



「シートベルト重要性体験」は毎回、家族連れなど多くの来場者でにぎわう。ホンダのブースには「シートベルト重要性体験」「自転車交通安全教室」(6月7日のみ)「ぬりえ&交通安全クイズ」「ヒヤリマップ作成」(5月6日のみ)などのプログラムが用意され、来場者は興味のあるものを選んで参加する。



シートベルトは正しく着用しないと、その効果が発揮されないことをインストラクターが解説。3km/hの速度で非着用と着用の違いを感じてもらう



「シートベルト重要性体験」では、ホンダのインストラクターが運転するクルマの後部座席に来場者が乗り、シートベルト着用の効果を実感してもらう。最初にシートベルト非着用の状態で、インストラクターが3km/hの速度で急ブレーキをかける。次に、シートベルトを着用した状態で同じことを行い、その際にインストラクターがシートベルトの正しい着用方法を伝える。体験した来場者からは、「たった3km/hでも、非着用と着用での身体の動きの違いがわかったので、後部座席でもシートベルトを締めたい」「今までシートベルトを着用の仕方が間違っていたので今後、注意したい」といった声が聞かれた。

「ガンレク! フェスタ」は毎回、家族連れなど多くの来場者でにぎわう。ホンダのブースには「シートベルト重要性体験」「自転車交通安全教室」(6月7日のみ)「ぬりえ&交通安全クイズ」「ヒヤリマップ作成」(5月6日のみ)などのプログラムが用意され、来場者は興味のあるものを選んで参加する。

「ヒヤリマップ作成」では来場者やガンレクのスタッフに協力していただき、地図上にヒヤリとした経験がある場所をシールで示してもらった。完成したヒヤリマップ(写真参照)はガンレク内に掲示された。



自転車を発進させる時の右後方の確認を身につけてもらう

また、四輪販売会社のホンダカーズ福岡はブース内にホンダの新型車両を展示し、スタッフが来場者に車両の安全アドバイスの紹介や安全アドバイスをを行った。

交通安全教室には5月6日と6月7日で合計465名が参加。様々な体験を通じ、家族で交通安全について考えてもらえる機会になったといえるだろう。



Hondaは福岡東警察署とガンレク、Honda Cars福岡に作成したヒヤリマップを寄贈



お父さんやお母さんと一緒に、交通安全クイズに取り組む子どもたち



停止線の手前で止まった後、前に出て右、左、右の安全を確認

2

●第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会 76校147名の教習指導員が 安全運転指導の基礎となる 運転技術を競い合う



開会式で挨拶を行う加藤四郎・一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会教習部長

6月5日、6日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)で「第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(主催:本田技研工業(株)、安全運転普及本部、後援:一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業(株)法人営業部)が開催された。同大会は、全国の教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に2001年より毎年行われている。



大型二輪部門「一本橋」

開会式では、大会運営委員長を務める吉田宏樹・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長と、来賓を代表して、加藤四郎・一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会教習部長が挨拶を行った。

今大会には24都府県76校から147名の選手が参加。さらに、各競技の審判として、16校17名の教習指導員が協力した。選手は普通二輪部門、大型二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う4種目の実技競技と、二輪は低速バランス、四輪は車庫入れをテーマとした実技指導力に取り組んだ。



普通二輪部門「コーススラローム」

表彰式では大会会長の峯川尚・本田技研工業(株)安全運転普及本部部長から入賞した選手にトロフィーが手渡された。また、普通二輪部門総合1位のドリフトモーターズ(長野県)・三浦剛基さん、同2位のユタカ自動車学校(愛知県)・吉川堅多さん、大型二輪部門総合1位の新東京自動車教習所(東京都)・栗原慎吾さん、同2位のアヤハ水口自動車教習所(滋賀県)・堀井久登さんが表彰された。



四輪部門「コーススラローム」



四輪部門「縦列駐車/車庫入れ」